

福島のおゆき国会日誌

<ベトナム国主席演説 同文、同種、同州の日越>

29日、衆議院本会議場では、武文賞（ポー・バン・トゥオン）ベトナム社会主義共和国主席の演説が行われました。今年、日越国交樹立50周年の年になります。なんと武主席は、私と同一年。苛烈なベトナム戦争から立ち上がり、政権の腐敗を乗り越えて経済成長を成し遂げ、貧困率は1986年の50%から2022年の4.3%まで飛躍的に減少させ、2030年までには先進国になるという自信に満ちた演説でした。



写真:衆議院ホームページ

演説では、8世紀に始まる長い日越交流の歴史が語られました。両国民は、同じ稲作文明を持ち、自然の厳しい試練や壊滅的な戦争を乗り越えて、立ち直る力、不屈の精神、勤勉さ、行動力、想像力、地域と家庭の調和を大切にしている価値観、忠誠心、感謝の心、祖先への尊敬、親孝行を持ち、真善美に向けて人格を磨こうとする性格が形成されたとおっしゃっていました。

私が約30年前に訪れたベトナムの山奥の少数民族の村で、少年たちが「英語を教えて」と群がって来たことを忘れません。その澄んだ瞳の中にある逞しい向上心を見て、この国は必ず発展することを確信いたしました。武主席がおっしゃるとおり、近いうちに必ずや先進国へと発展することでしょう。日本もいつまでも停滞の惰眠を貪っている場合ではありません。

<国会でのスマホの使用を契機に国会改革>



29日、自民党・小泉進次郎議員、公明党・中野洋昌議員、立憲民主党・寺田学議員、日本維新の会・遠藤敬国対委員長、国民民主党・玉木雄一郎代表、そして有志の会の私の5党1会派で、先日河野太郎大臣が答弁にスマホを使用しようとして注意されたことを契機として、国会審議にデジタル技術の活用を求める申し入をすることを決めました。

私からは、「世間では当たり前のように会議でデジタル技術が活用されている中で、今さら各党会派でこのように申し入れすること自体が情けない。速やかに結論を出すべし」と発言をいたしました。私は、たとえば参考人質疑などにオンラインを活用して外国人の有識者から話を聞いたりするなど、国会審議自体のあり方全体を見直さなければならないと考えております。

今回は、河野大臣の答弁を契機として、野党側からの提案に与党の皆さんも呼応して声を上げたことに意義があると考えます。今後、議院運営委員会の場で議論されることとなります。

<政治資金収支報告 個人献金が支えとなっています>

1日の茨城新聞で昨年の政治資金収支報告書についての報道がなされました。私の場合、他の現職の国会議員と異なり無所属ですから、政党助成金をいただいております。約4割を昨年行った水戸での政治資金パーティーで賄い、残りは毎月100万円いただいている文書通信交通滞在費と個人寄付で政治活動を続けさせていただいております。

2,575万円というお金は、普通の感覚では大きな金額ですが、事務所を議員会館と水戸市と筑西市に置き、それぞれに自腹でスタッフを置いているので、カツカツの状況です。この1年間無所属でもしっかりと政治活動をできるよう、資金面で支援いただいた皆さんに感謝してもしきれません。

私は、これからも自らのすべての政治資金を透明化してまいる所存です。それが、貴重なご浄財をいただいている皆さんへの政治家としての義務であると考えます。

最後に、個人献金は随時承っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

順位	議員名	所属と選挙区	総務省所管 分22団体	議員事務所 分22団体	計
1	加藤 明良	自民・参院茨城	0	8400	8400
2	渡野 龍	国民・衆院石区	2624	5360	7985
3	野賀 福志郎	自民・衆院石区	4710	3273	7983
4	上月 良祐	自民・参院茨城	1869	6050	7919
5	飛山 弘志	自民・衆院石区	1307	5106	6413
6	水堀 桂子	自民・衆院石区	0	5262	5262
7	国光 文乃	自民・衆院石区	0	5147	5147
8	藤原 康弘	国民・衆院石区	2258	2582	4840
9	石井 啓一	公明・衆院比例	3655	0	3655
10	田所 善徳	自民・衆院比例	0	2894	2894
11	青山 大入	立民・衆院比例	797	1928	2724
12	福島 伸享	無所属・衆院比例	0	2575	2575
13	石川 昭政	自民・衆院比例	0	2388	2388
14	遠藤 敬子	無所属・参院茨城	340	2018	2358
15	石井 肇	維新・参院比例	1701	800	2501
16	中村 寛四郎	立民・衆院比例	0	1456	1456
17	小沼 乃	立民・参院茨城	0	1243	1243

(注) 政務省、22年衆議院議員選挙(17人)を対象とした。所属政党之類別は、同年衆議院議員選挙(17人)を以て、自民・公明・立憲・維新・国民・無所属・立民・参院・衆院・比例・無所属の順に並び、所属が不明な議員は「その他」として記載されている。前掲の数字は、各議員の収入額(議員報酬、議員会費、議員手当、議員旅費、議員家族手当、議員家族旅費、議員家族手当、議員家族旅費)と議員の個人収入額(議員報酬、議員会費、議員手当、議員旅費、議員家族手当、議員家族旅費)の合計額を示している。議員の個人収入額は、議員報酬、議員会費、議員手当、議員旅費、議員家族手当、議員家族旅費の合計額を示している。議員の個人収入額は、議員報酬、議員会費、議員手当、議員旅費、議員家族手当、議員家族旅費の合計額を示している。